

2022年5月4日(晴れ)暑い。昨日は成東駅前旅館に宿泊したので、成東駅前から朝一番で本コースを歩く。距離は15kmで少し長い。

今日のお目当ては、国指定天然記念物の「食中植物群落」を見学することにあるが、季節が早いので観察できるか分からない。ついでに小説「野菊の墓」で有名な伊藤佐千夫の生家を訪れる予定にしている。



JR 総武線成東駅前の広場には、関東ふれあいの道案内板が3コース設定されていた



今日歩く道は「⑦伊藤佐千夫のみち」15km(首都圏自然歩道協議会)



途中お目当ての「食中植物の群落地」を見に行く



朝 6:05 宿を出て成東駅前をスタート、今日も快晴薫風が気持ち良い



駅前から道標に従って歩く



町を外れて郊外に出ると、すぐ田圃が広がる



バス道路を歩くと、傍らに山武市歴史民俗資料館が見えてくる、早い時間だから開館していない



資料館の裏手に伊藤佐千夫の生家があった、江戸時代の建築と言う。県文化財



彼は元治元年(1864)ここで生まれ、東京に出て正岡子規に師事し、写実的な歌風を残した。  
短歌集「アララギ」の有力な同人。小説「野菊の墓」が特に有名



伊藤家の菩提寺。伊藤佐千夫の墓は、東京亀戸の普門院に在る



集落を出て農道をおると



本因寺に出る、佐千夫が学んだ寺子屋。大永2年(1522)の創建で、法華宗



天然記念物「食中植物群落地」。成東市と東金市の境にある 15 千㎡の湿原地帯が広がる。  
九十九里平野には、このような砂質土壌と湧水によって形成された湿原が多い



ここには食中植物以外にも約 400 種類の植物が生育しており、1920 年(大正 2 年) 国の天然記念物に指定された



前を流れる作田川により、適度な湿潤さを保っており、珍しい食中植物の宝庫だと言う



虫を捕食する風景は夏、未だ草花が成長していないので、観察出来ない



モウセンゴケ、イシモチソウ、シロバナ、ミニカキグサまだ観察する時期が早かった



関東ふれあいの道は、この湿原地帯を通り抜けて行く、素敵な遊歩道であるが、春はまだ早いか



珍しく石標が設置されている、多くの見学者がここを訪れるからだろう。求名駅へ1.7km



求名(ぐみょう)の集落に入り、東金線の踏切を通り抜ける



踏切を渡り、田圃の畦道を通り抜けると、「㊹城跡を訪ねるみち」のゴール地点に出会う



㊹コースはここ東池がゴールであるが、我々のコースは更に西に向かう



妙宣寺山門、伊藤佐千夫の小説「春の潮」舞台となった所





「妙宣寺」室町時代の初め日蓮宗の日英の開基と伝える



千葉県農業大学校前を通り抜けると、元福寺に到る



「元福寺」山門は朱塗りであるが、本堂はひっそりした佇まい



両総用水を越え松の郷と言う集落は、高野槇の素敵な生け垣が続く



また畑の中を縫うように里道を通り抜ける



のどかいいね！



「寿福寺」入口の門だけが新しい



奥に鄙びたお堂がひっそり佇む、無住の寺だ



県道に出会う大事な交差点に、道標が朽ちて倒れている、じゃまだから折られたかも知れない



20m程常総台地を上がると浅間神社がある



浅間神社



浅間神社の社を下ればゴールの東金駅に到着する、大網駅に出ると東京行きの直通電車があるから便利だ。

[参考タイム] 成東駅(6:05)→伊藤幸夫生家(6:25-6:30)→食中植物園(7:15-7:30)→求名駅前踏切  
(7:55)→東池(8:30)/東池(12:00)→妙宣寺(12:15-12:55)元福寺(13:25)→寿福寺  
(14:05-14:10)→浅間神社(14:50-14:55)→東金駅(15:20)

この項完

**「関東ふれあいの道(千葉)29城跡をたずねるみち」に続く**